

完成車メーカーにおける 最適国際生産分業の形成に関する研究

地域共創学部
地域づくり学科
准教授
横井 克典



研究シーズの紹介

近年、海外展開を推し進める多くの日本企業が、現地に供給するモノを現地で生産するだけでなく、各国・地域の優位性を踏まえた拠点配置を試みてきている。

ところが、そうした拠点配置によって形成された国際生産分業の全体を、その時々に応じて最適にしていくことはかなり難しい。

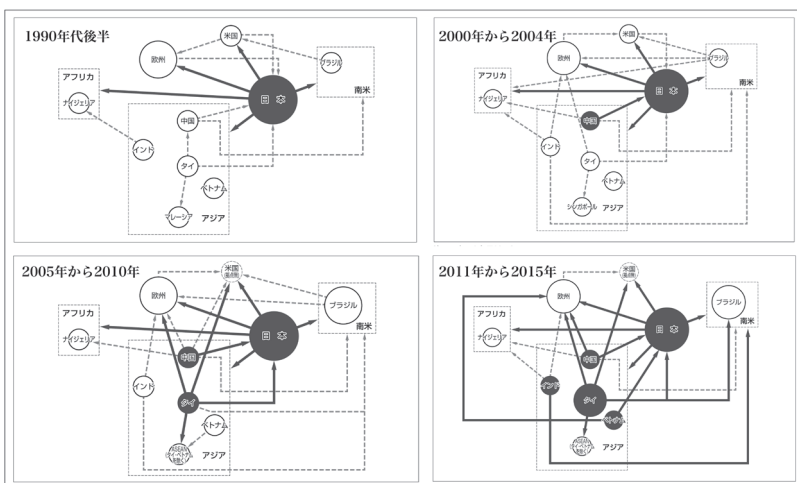
この困難な問題は、いかに解決されるのだろうか。

本研究では、海外で華々しい成果を挙げている日本の二輪車完成車メーカーを事例として、国内外での企業へのフィールド調査と、収集した資料をもとに、上記の問いの解明作業に取り組んでいる。



最適な国際生産分業 を目指す調整の仕組み

- 国際生産分業は、どこかの時点で完成を迎えるのではなく、常に形成の過程です。国際生産分業を最適にしていくためには、こうした認識のもとで、組織内部に拠点配置を調整する仕組み（意思決定のあり方）を整える取り組みが重要であることがわかってきました。



左図は、本田技研工業（二輪事業）の国際生産分業の形成プロセスです。国際生産分業の調整の仕組みのもとで、長期的に最適な形をつくり続けてきました。

出所：横井克典 [2018] 『国際分業のメカニズム—本田技研工業・二輪事業の事例—』同文館、3~4ページ、図序-1~4を借用して作成しました。

期待される活用シーン

- 海外拠点の役割が重複している、拠点間の連携が取れていない。
- 現地でのビジネスのスピードが早すぎて、海外拠点の内実をつかみにくなってきた。



海外拠点と本社への聞き取りをもとに、原因を考えることができます。

- 本社・海外拠点ともに日々のビジネスが忙しく、自社の海外ビジネスの全体像が不鮮明になってきた。



海外拠点と本社への聞き取りをもとに全体像を整理し、フィードバックできます。

